夕刊
磐城新聞
六月二十三日發行

定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵稅拾五錢）
廣告料 普通欄一行金六拾錢 特別欄一行金九拾錢 五號十二字詰一行一回（場所指定一行廿錢増）
編輯印刷兼發行人 柏木哲 福島縣石城郡平町田町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
登錄電略（タイライワキ）平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

愚庵全集の出版
希望に就いて
島田忠夫

◇

愚庵和尚の研究に專心たづさはつて二年餘、今や漸く僕の研究も完成に近づいた。殘された唯一つの仕事は、愚庵和尚の最も正確なる全集の出版あるのみ。

治明三十七年に東京本郷區三丁目文求堂書店より、陸實先生編序の『愚庵遺稿』が出版されてから、大正になつて齋藤茂吉先生の『短歌私鈔』『緘短歌私鈔』の二著の中に、愚庵の短歌に就いて何れも數十頁の紙を費してゐる、しかるに、猶愚庵の生年月日を始め、兄弟のこと、諸國放流のこと、和歌のこと等、幾多の不備なる點を殘してゐるのは爭へぬ事實である。

◇

さらに、その他には相馬御風氏の『良寛と愚庵』植松壽樹氏の『近世萬葉調短歌集成』寒川鼠骨氏編『愚庵全集』等があるが、何れも不備な點があり、今回僕が調査した愚庵和尚が明治十一年に作れる和歌六十餘首、漢詩四十餘篇、戯文一篇などは元より揭載しては居らぬ。

この意味で完全な全集を出しておく必要があるのであつて、殊に平町に於けるが如く二十餘點もの遺墨のある所では、纏めて寫眞を撮ることも容易であるから僕は研究完成と共に、平町にある全遺墨を寫眞にしたいと思つてゐる。

◇

これは何れ京都方面の遺墨、東京の正岡家藏天田家藏の遺墨等と共に、あつめて寫眞版の集を作りたいと思ふ、第一書房で出した良寛遺墨集の如くにしたら、同好者にも大いに喜ばれるであらうし、斯界の爲めにもならう。

◇

次ぎに作品であるが、既に一二年前から改造社の『改造文庫』には『愚庵歌集』なる廣告が出てゐて未だ出版されない。これは齋藤茂吉先生の編となつてゐるが、折角色々の資料を輯めて、改造文庫にして出すには一寸惜しいしするから、別に一本とする考へが先生と僕の間にある。

◇

目下は出來に思はしくない時期になつてゐるし、僕が希望してゐるやうな大げさな書物は一寸直ぐ出ないかも知れない。未だ具体的にはどの出版書店とも話してゐないが、近日中に岩波の主人とも會つて話したいと思つてゐる。

さてそんな寫眞の費用を作るのに、東京で僕の帝畫色紙頒布會をやつてゐる。どんな結果にゆくかは僕にも判らない。これがうまく行かぬ時は、齋藤茂吉先生や西條八十、北原白秋、土屋文明、伊藤貴麿、吉江孤雁の諸氏が色紙を書いて後援して呉れると云ふのだから添い。

◇

とに角、愚庵和尚の遺墨を集成して、それに新發見の作を加へた書物を出すのが僕の主眼である。佳い書物を出せば相當賣れるのであるから、出すまでの費用である。それに充つるのに僕の餘技を以つてする。つゝしんで御後援をお願ひする。

附記

島田忠夫氏色紙頒布規定は、東京市外、碑衾町碑文谷七九六番地、原勝君宛に御照會乞ふ。

東京
平塚明大

晝の間の入出拂ひしアパートに尋ぬる弟の名札を見付く

久し振りに來りてわれは弟の留守に鍵孔より部屋を見にけり

飯屋に來て帽子かぶりしまま食事する忙しき東京の慕しにも馴れぬ

好まざる友しばらくは尋ね來ずわがそぶりあらはに過ぎしかと思ふ

堀川のながれ淺ぐどごぼりし芥をこえて水はいきほふ

時代警句（ニイチエ）

○吾々の心の中に在る禽獸は僞らん事をねがふ、道徳は吾々が世の中から引き裂かれない爲の止むを得ざる虚僞である（人間的な）

○これ迄一番余の氣に入つたことは呼び賣りの婆さんが余の爲に自分の持つてゐる葡萄の中から一番甘いのを捜し出す迄は安心せぬと云ふ事である、人もこの位に哲人でなければならぬ……………（この人を見よ）

6月24日

△赤松滿祐、將軍足利義敎を弑す、足利氏の天下搖ぎ此より全く寧日なし（嘉吉元）△加藤淸正歿す、豊臣第一の功臣で智仁勇兼備の名將也、彼が生存中は流石の徳川家康も秀頼に手を下すこと能はざりき、今日尙淸正公として神に祀る（慶長一六）

拈華微笑

仕込み、藏出し低資返濟、新規借入れ。酒屋の年中行事になる。

◇

なるべく期待に副ひ度い。正直な知事の挨拶

◇

石炭許りか繭迄も。貨車のストックは情け無い

◇

拂へども去らぬ學生行商と蚊。厭な季節近づく

◇

道路や橋梁を蹂く自動車があつたには驚いた

一日一禪

○

江雨霏霏江草齊
六朝如夢鳥空啼

講談
元祿名妓傳
小邑井小巴演
（宮野恒彦畵）

百〇五席

寺尾彌左衞門考へたが、此のお照は何處で見たのか更に思ひ出すことが出來ません、兎に角見たには覺ゐのある女には相違ないがとばかり、併し何處かで見た位なことでは俄に惡婦毒婦本人と定める譯になりません、彼是してゐるうちにお照は太郎左衞門の所望によつて琴をたんじ舞を舞ひますが、何れも手に入つたもので威服の外はない、餘程好い家に育つたもので、眞逆に甲州の山猿とは思へない、此晩は醉ひを盡して退く、ここ三四日滯在して浦賀下田の賊船の模樣を聞き合はして居ります、スルト或日のこと浦賀表よりの便りに、龍神丸が入港した調べて見ると夫れは鍋島の家來に相違ない、而も米を二千石積込んで大阪表より廻つて來たもので、鍋島家からも前以て通知があつたものだとの事、現在二千石を積込んで來た以上は眞逆に海賊船ではあるまいが、併し龍神丸が入つたとなると此處で迂くわつに日を過ごすべきでないと、彌左衞門も早速仕度に及ぶと、太郎左衞門が大弓拗て寺尾、其の海岸の人相は大方承知でもあらうが、夫れは是々斯樣〳〵其の心得で……』と注意して呉れたが、夫れは小西屋六左衞門一家のもの又お喜知が語つたところ恰も符節を合した樣で聊かの相違もない 彌『お心付千萬忝けない』と言つたが、何で太郎左衞門が斯く迄ぞ〳〵の面體を知り居るか不審でなりません、是れは知つてゐる譯、側でお照がくわしく話したから……彌左衞門は其儘岡ッ引を十人借て其者らを連れ浦賀表へ乘込んでくると、龍神丸は一艘繋いであるにはあるが、二千石の米は既に海賊に淩はれた跡、足ずりして彌左衞門無念に思つたが致し方はない、此の樣子では急には再び賊船が浦賀へ入る筈はない、處を替えたらばと考へましたから、ニラ山から連れて來た岡ッ引は其儘返し何れ捕方に向ふ時は再び出てきて呉れるやうにと、道を轉じて伊豆へ入り下田へを參つて、暫く滯在して居りました、勿論此の間に駿州の淸水港を始めとして、船着きへ役人を出した、是等の人々は下田奉行の手から出ましたもので、其便りを待つて居る或日の事。○『旦那樣御退屈でございませう、お茶を入れて持つて參りました、お一ッ召あがりませ』彌『オ、是れは當家の娘子か、よく氣が着いてくれた、早速頂くであらう』○『サア何うぞ召上がつてくださいまし！』彌『四五日見えなかつたが何れへ參つたな』○『ハイ浦賀の親類へ參つて居りました、アノー旦那樣』とモジ〳〵する、是れは十七歳になる、器量も相應な當家の娘 彌『あゝ左樣か浦賀へ、夫れは〳〵』○『アノー旦那樣』彌『何だな、なにか用があるか』○『ハイ』と言つたが、まだモジ〳〵してゐる、我々ならばハ、ア此逸俺にござつたな、何も然う恥かしがつて居るに及ばぬ、私は阿方に惚れましたとでも、何とでも言へば好いにと、早呑込するところだが、どうしてお武家ときては物堅い「決して厭らしい方へ氣などは廻しません 彌『何ぢやな』○『旦那樣は相州の方にお出なさつたそうでございますね』彌『イヤ格別居たと云ふ程のことはない、此ちへ參る節少し用事あつて浦賀へ參つた、ゐたのはホンの兩三日の事だつた、どうか致したか』○『浦賀ではございません、ニラ山の代官のところにでございます』彌『妙なことを申すではないか、ニラ山は相模ではない當國の筈ぢや』○『ハイ夫れは然うでございますが、浦賀へお出でなさる前にニラ山へお出でなさいましたらう』彌『何だか話がくどい樣だが、如何にも其通りぢや』○『お代官樣のお姿樣は大層美しい方でございますね』彌『何を申し居る其通り美なる婦人ぢやそれがどうした』

ラヂオ
仙臺 JOHK
…廿三日（水曜）…

△前六、〇〇B ラヂオ體操
△八、四〇A 經濟市況
△九、〇〇 氣象通報
△九、〇五 經濟市況
△九、一〇 料理献立 日用品値段
△九、三〇A 經濟市況
△一〇、三〇 趣味講座（鈴蘭の話）川村泉
△一〇、五五A 經濟市況
△正午 時報
△後〇、〇五 ラヂオドラマ（喜劇二つの爭議）木村岳風
△〇、四〇A 全國ニュース 氣象通報 告知事項
△一、〇〇A 經濟市況
△二、〇〇A 家庭大學講座（論理學）早大教授中桐確太郎
△二、三〇A 經濟市況
△三、四〇 氣象通報
△三、五〇 經濟市況
△四、〇〇A 全國ニュース
△五、三〇A 經濟市況
△五、四五 今晩の番組豫告
△六、〇〇B （子供の時間）お話（伊勢神宮）江崎政忠
△六、三〇A 英語講座（初等科）岡倉由三郎
△七、〇〇A 全國ニュース 氣象通報 告知事項 番組豫告 生繭相場
△七、三〇 ローカル 講演（農村と民謠）後藤桃木
△八、〇〇 民謠（よいとさ節…仙北祝唄…仙南祝唄 尺八大津綸…仙臺大津綸…追分節）
△八、三〇A 淸元（三千歲）
△八、五五A 連續浪花節（天保水滸傳）春日亭淸吉
△九、四〇A 時報 全國ニュース 氣象通報 番組豫告 告知事項 生繭相場

大和田醫院
南町電話一七〇
廣告

廣告

平町新川町
木村病院
電話一六四番

平町南町
增田耳鼻咽喉醫院

初夏のサロン
樽詰生ビールを召せ カップ一杯十五錢
そして酔つたあごの冷たいアイスクリームも御座います 一ヶ十五錢
田町 サロン
電話三五二番

內科、小兒科 花柳病科 入院應需
藤沼醫院
平町紺屋町 電話平長五〇七番

サツマ鰹節入荷
鰹節の王
風味さダシ大徳用
枯物壹貫匁 極上 金七圓五拾錢 上同 金七圓也
阿部源特製 フグの味淋干し 百目四拾五錢
全クウマイ 鰹イカウニ。鹽辛
多少共御用命下さい
電話新設 三〇三
平三丁目角 海產加工品 みやげ店 阿部源

外科 X光線專門科
入院隨意（自炊の便あり）
平南町
上田醫院
病室完備（電話一二九）

內臟外科一般 外科花柳病科（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

度量衡計量器
吸入用酸素
酸素吸入器
關內藥局

更衣
霜降通學服安賣
小學生用 35錢より
中學生用 170錢より
モリタヤ洋品店
5丁目 電33

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

債券。公債。兩替金融
多田井質店
平町大工町 電話五九一番

舊債をやつと濟して 酒屋さんに新な惱み
來納期の税金が十二三萬圓 結局低資借入で漕ぎ拔くか

消費量の減退、價格の低落、賣掛代金の回收困難等何れを見ても結構ならざる條件ばかりなのに加へて他方面優良品の侵入等腹背に大脅威を受け倚て無き恐怖時代を現出しつゝある地方酒造界は依然容易に好轉の域に入らぬ昨今の景氣から彌々倍々加速度的にその受難を深められ當面の切り拔けに就ては何れも苦心慘澹たる有樣で去る三月末日を納期とする五年度第四期分酒造税約十八萬圓中の三萬三千圓は興銀より七步の低利資金を借り受け辛じて徹納の急場を濟ぎぬいだが爾來三ヶ月當時の借り入れ金が恰も今六月を以て完濟に至ると同時に矢繼早やに本年度第一期分が來月末日の目睫に迫つてゐるので郡下四十軒の酒造家は均しく之の新らしき惱みにそろ〳〵對策を考慮し始めた樣である。尤も今回は造石數の減少に伴ひ一期分の税額も前回の約十八萬圓よりは遙かに減少した十二三萬で隨つて税金の調達も以前程の苦しみは無いであらうが今や月餘に迫つた納期を控え漫然納まり返つて居られるのは極めて少數で所詮は前回の借り入れ金完濟を俟つて新に興銀の低資融通に仰がねばならぬではないかと觀測さるゝが元來該低資は擔保物件を石三十圓の安價に見積り而してその一部を提供せしむるに止まり既に危險率が極めて少いばかりか之に對しては税務當局が常に嚴重に監視する外組合及適當の個人連帶者と彼此三重の保證を附するもので回收上その間絶對に過誤なき事になつてゐるので銀行側でも敢て之れが融通を躊躇する事なく今回も恐らくこの方法によつて期間内完納を期し得るに至るであらうと觀測される

は三百十三萬一千六百二十一圓に修正したのを更に委員會で三百十二萬三千七百八十二圓に修正決定したが本年度に於ける縣當局の調査方針は福島、郡山、若松の三市側地に對し昨年度より四分五厘減を目標としたもので疲弊困憊の極に達して居る農村に對しても縣の修正より更に二分五厘を減じて欲しい旨縣當局より出席參與した本田氏を通じて了解を求むる處あつた

アツサリしない學生さんの行商
之から續々やつて來る 各家庭でも斷りに苦心

まだ六月の下旬にはいつた許りで各學校の暑中休暇が始まる迄には尚ほ若干の餘日があるに拘らず例の學生(?)の押し賣り行商が早くも入り込んで各家庭に迷惑を掛け始めてゐる。一體之等の青年が本當に眞面目な學生で一般が海へ山へとブル的銷夏氣分を滿喫してゐる時を境遇上止むに已まれぬ必要から之れによつて學資の一端と云はんよりか寧ろその大半を生み出さんとする樣なのであるとすれば勿論同情に値するものあるが其の執拗なる言葉遣ひその他から觀察し到底敎養ある青年學徒の殊勝な商ひと受け取れぬものが少くないので之種學生の來訪を受け假令樟腦一個でも好感を以て買ふと云ふ家庭は絶無と謂はぬ迄も極めて少い樣である。而も之等の持ち廻る品物は動もすると各家庭の日常生活に比較的縁の遠いものが少くないので一片のお義理上之れを買ふにしても其間の迷惑が一としほ深刻なものがあり殊に平町の如きは子供の學用品は悉く保護者會から供給さるると云ふ樣な關係もありクレーヨンや鉛筆などを無理押しに押しつけられる事は近頃以て迷惑な話である、苟も押賣りがましいものに對しては警察犯處罰令などで夫々罰則が規定されてあるとは云ふもの其の場合一々其筋へ訴へ出る事もならず之れは如何にしても機宜に適した其筋の取り締りに俟たねばならぬと近來一般民衆の聲の樣である

投槍 寄書歡迎
少年犯の增加

◇この頃の犯罪傾向の新しき分野に少年犯罪の量的増加がある、所謂不良少年と稱せられるものの増加とその犯罪が從來の稚拙を脱し大人も及ばぬ惡智惠と大膽さとを持つて來たことだ

◇少年の犯罪はその罪の發生が社會惡を母體とし社會的缺陷に依存して居ることに於て、世を警めるものにとり重大な關心を持つ、蓋し少年犯罪の増加と深刻化は、その背景をなす社會と家庭と敎育の何處かに非常に大きな穴があるからである。

◇少年を驅つて矯激な思想運動に走らせることを警めることも大いに必要であるが、破廉恥事件の主役たることを誇りとする不良少年の激增に對しては、より一層の善導が必要ではないだらうか

◇近頃地方新聞の記事を讀んで特にこの感を深ふするものあり、風敎上寔に深憂大患たるを失はず敢て愚見を披瀝す（城山南郊生）

なるべく地方民の期待に副ひ度い
昨夜谷口の歡迎會で 川崎知事の挨拶

川崎知事の初巡視を迎へた平町有志の歡迎會は昨二十二日午後七時から谷口樓に於て開催したが出席百餘名伏見町長發起者を代表し地方の現況と之に伴ふ今後の施設經營が知事の經綸に俟つてその完成を期せねばならぬと云ふ信賴の念を加味した歡迎の辭を述べたるに對し知事は——諸事地方民の期待に庶幾かるべく駑鈍を竭す念願なるも自己の權限內に於て獨斷專行し得る事項は別として事の中央當路に關係を有するものは往々初期の進捗を見ざる場合あるを豫想せねばならぬので此邊諒解の下に指導鞭撻を吝まれぬ樣至囑する意味の謙讓な謝辭を述べて宴に移り歡を悉して八時半散會した

家屋賃貸價格調査委員會
少許の修正を施し 今二十三日終了す

石城郡內第二次家屋賃貸價格調查委員會は二十一日から平各種團体事務所樓上で開催今二十三日を以て終了した第一次決定額は二百九十萬六千六百二十三圓で縣

地方の繭價漸次下落
觀測通り標準相場に接近す

昨二十二日の繭市場取引相場は左の如く既報觀測の如く次第に下落し沼津市場の標準相場に接近しつつある

四倉 △白繭最高三十圓八十錢、最低二十三圓、買馴二十八圓五十錢、掛目二十四掛、總貫數三千四百八十七貫、黄繭最高二十八圓十錢、最低二十四圓買馴二十六圓二十錢、掛目二十三掛、總貫數三百十一貫、買手磐陽舘製糸場外九名

植田 白繭最高二十九圓十錢、最低二十五圓、買馴二十七圓三十錢、掛目二十三掛、總貫數千六百六十四貫、黄繭最高二十九圓、最低二十七圓、買馴二十七圓六十錢、掛目二十三掛、九百九十三貫

平町會招集
廿五日前十時

平町會は來る二十五日午前十時から招集特別税戸數割賦課額決定、六年度更正豫算、退職敎員の慰勞金支給

平氣で犯則をやる自動車屋を監視
平土木監督所の各路線保護施設

平土木監督所では今二十三日より所員を督勵し管內自動車の制限外積荷並にそのスピードアップに就て平署と協力し之れが取締りに努める事となつた、卽ち積載量一噸の制限を超え速力に就ても犯則のもの多く通行止の橋梁、改修中の道路を疾走して之れを破損する事夥しく湯本平間平町一丁目地內國道の凹凸の如きは大部分これに因る被害であるが豫算の關係上到底莫大な工費を投じて改修され得ぬ現況にあるので違反者に對しては假借なく告發する方針であると

瓦斯中毒でなく心臟痲痺と判る
作業中苦悶し始めた坑夫

好間村北好間居住伊達郡宮野村舟場生れ坑夫柏原三平(四二)は昨二十二日午後四時頃小田炭礦第二斜坑內で作業中突然苦悶し始めたので居合せた仲間が瓦斯中毒の見込みをつけ直に坑外に運び出し應急手當を加へたが遂に死亡した平署員が出張檢視した處心臟痲痺と判明

その他數件を議決すると

出廻りが足らぬ爲 特別貨車見合せ
地方春繭の激減振り

平驛貨物取扱所に於ける去る十五日四倉繭市場開場以來昨二十二日迄一週間の生繭輸送取扱高は特別小口扱並に小口扱一、一八七個、この總量七、四八二キロに過ぎず昨年開場以後の一週間分に比すれば約三割方を減じてゐるが大口貸切も昨年は毎日三四車宛動いたものが本年は前記七日間を通じ僅かに四車で小口大口を合せ運賃は六百餘圓内外に過ぎぬ爲昨年から實施された最盛期中に於ける生繭輸送特別貨車の増結も今年は目下の處見合せてゐると云ふ誠に手持無沙汰な狀態にあると

氣がゆるむ
春から夏へ！ 遺失物の增加

春から夏へかけ精神の弛緩する季節はどうしても遺し物も多いが平署に屆出た今月中の拾得物は今二十三日現在で二十九點で之れに停車場よりの屆出百四點（前月分を含む）を合して計百三十三點である、署直接扱ひの內十四點は各遺失者が判明夫々下げ渡されてるに反し停車場扱ひのものは風呂敷、帽子、書籍等の比較的安價のものであるだけ遺失主へ下げ渡されたもの僅か十三點に過ぎない、平署に屆出たものは現金四圓どまり在中の蟇口、時計が大部分で比較的金目なものは何れも返還され四五十錢位在中の蟇口と云つたところが遺失主不明で保管されてゐる

氷水屋が二百軒
今日迄平署へ出願分

昨日が夏至で照る日も著く夏仕度の人がめつ切り多くなつた。梅雨上りの照りを待ち構へてゐる平町の氷水屋が其筋へ正式の手續きをしたのだけで約二百餘り、去年よりは若干の增加を見る形勢に在る、尙ほ從來はリヤカーの所謂移動アイスクリーム屋は別段の願ひ出でを要せず任意に營業を認めてゐたが之の方面こそ一層取り締りを嚴にする必要あると云ふので今年からは其筋の許しを受けねば賣り歩るいてならぬ事にしたと

四倉通信

○○○○○○○ 連日の大漁で賑ふ 四倉濱では連日鰯鰹の大漁續きで大活氣を呈してゐる

平町新風景
拜啓は昂ぶる 生白い青年が語る
所謂イットの眞意義

戀のステツプを踏み出させずには置かぬ樣な陽氣な蓄音器や、エロサービスのスローガンで客引に餘念のないカフエーや一杯屋。それに未だ平には該當事項は無いがズロース股下二寸の掟を破つた破らないで問題を惹起するとか云ふエロレビユー等何事も尖端的でなくては納まらないと云つた傾向の今日です。

○

今更『イットと云ふ言葉の意味を御存じですか』などとお尋ねしたら、たちどころに『失禮な』と跳返されるかも知れません、イヤ或ひはアベコベに『セックス•アッピール——性的魅力のことよ』と敎へられることになりませう、事程左樣にイットなる言葉は今や若い連中は勿論町會に議席を有する程の不良老年(?)間などには盛んに用ひられてゐるんですがイットの本當の意味はそうぢやないんだそうです。

○

由井の正雪の樣なあたまをした顏の蒼つ白い如何にも拜啓陳者らしい青年は或るカフエーでいとも朗かに語る、以下その梗概。

言葉の發明者は英國の女流創作家のエリノア・グリーン。かのクララ・ボウをして今日の盛名を博せしめる基礎をつくつた『イット』なる映畫は女史の小說を土臺として、女史自身の監督のもとにパラマウントで作られた。爾來女史の名は俄然歐米の空に鳴りひびきイットと云へばすぐグリーンの名を思ひ出させ、グリーンの名を聞くと直にイットを連想させる。

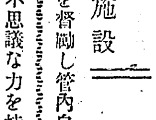
○

女史が最初この語を使用したのは小說中の男主役で美男子ではないがどうしても他人をひき付けずにはおかない強い不思議な力を持つてゐるといふ、その不思議な力を形容する爲めだつたのださうで、この力をもつてゐる者は千人中に一人あるかない。世間一般の考へてゐるイットとは質を全然異にするのだ——。

拜啓先生茲迄辯じ立てると些か疲れが出たものと見えへチユーとストローを吸ふのでした。

。。

正誤、昨紙本欄末尾『平町新風景を描いて見度い』の上夜の二字を脫落す



艶罪黑白

◇女中の不作法を並べるようだが敢て怨みがあるわけでない、たゞ花柳界の繁昌の爲めの親切からなのだ、處で一體藝者はお客の遊興を助ける爲めに呼ぶものか、それとも女中の手助けに呼ぶものか、ごつちなんだい◇女中が大きい尻を据ゑて〻藝者がハコを運んだりお銚子を取りに立つなどは見ッとも好いものちやない、アゴで女中にこき使はれてる藝者も好い氣なものだが◇人氣稼業の藝者がお座敷をかけて貰ひたいから、女中の機嫌をとるのが彼女をそうさせてるのか知れない弱き者よ汝の名は藝者なりか。

○○○○○兒童美化作業 四倉尋常高等小學校兒童は昨二十二日町內の美化作業に從事した

平町人事

△出生 立町八五田村郡小野新町八反田二二佐藤寛四男武男

田町三九東京市下谷區二長町五○田中綱三郎三女ヤイ

正月町三○富永清五郎長女ミネ子

三丁目二九小野麟太郎二女光子

▲死亡 禰宜町四九西白河郡三神村三城目郷戸一小針登（二二）

大町栃木縣河內郡姿川村鶴田二一一山形菊之進（五二）

イヨの品
トビハナレてヤスイ文具
平マーケツト

石川亭の柳川鍋……
六月廿五日より
柳川なべ 三○錢
柳川なべ（御飯付）四○錢
柳川丼 三○錢
鰌汁 一○錢
美味、滋養、何れも滿點で！夏のシーズンの食物としては斷然一等で御座います。中庭の緑葉が噴水の飛沫を浴びる風情を眺めながら御召上りは又格別と思ひますので……おまちして居ります。
牛鳥肉御料理 平町田町 石川亭 電話四三番

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋 山崎合名會社
福島縣平町 電話（營業部一〇番 本店二七番）

内臟外科 外科一般 花柳病科
入院隨意 自炊の便あり
平町田町赤心堂病院跡（電話四三六番）
安齊外科醫院
看護婦募集

◎レコード破りの石炭大廉賣！
（磐城炭礦二等炭）
正味十貫目一俵 金卅錢也
◆品ガ良ク『値ハ安ク』ヲモツトートスル當店ハ此度超破格ノ格安石炭ヲ販賣開始致シマス
◆値ガ安クトモ品ハ惡クハアリマセン
◎配達ハ二俵ヨリ致シマス
御注文は 電話二三七番
平驛前 阿部石炭商店

吉田眼科病院
平町紺屋町